

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

栄養不良対策行動ネットワーク
(Network for Action against Malnutrition: NAM)

代表理事 渡辺 鋼市郎

栄養不良対策のための人材育成とネットワーク

～実践的な知識・経験共有による日本発の栄養支援の土台作りを目指して～

■ 団体設立の経緯

栄養不良が原因で毎年250万人の子どもが死亡していることをご存知でしょうか。「栄養不良」という言葉は聞き慣れないかもしれませんが、栄養分の摂取不足や病気などが原因で発育が妨げられ、またさまざまな健康の問題が生じる状態のことをいいます。栄養不良の子どもは病気にかかりやすく、またいったんかかると回復しにくいため死亡するリスクが高くなります。また、また、子どものときに慢性的な栄養不良（年齢に対して身長が低い状態）になると、子どもの身体的・認知的な発達に妨げられ、その影響は生涯にわたることが分かっています。そして、人口全体ではこれが一国の経済・社会開発に大きな影響を与えることになってしまいます。たとえば、栄養不良の子どもは、そうでない子どもと比べて将来得られる収入が最大20%も低くなり、経済成長に最大3%にも及ぶ損失を与えると推定されています。

しかし、適切な治療・予防の介入を実施することで、女性や子どもたちを栄養不良から守ることが可能になることも分かっています。ただ単に食糧を提供するだけでは本当に低栄養を持続的に軽減することはできません。栄養不良のタイプによってその要因はさまざまであり、科学的に実証された適正な方法で支援対策を組み立て、実践をすることが必要です。

このような栄養不良の問題の重要性や対策についての認識や機運が世界的に高まってきていま

す。そして、国際的な栄養不良への対策の仕組みとして、SUN (Scale-Up Nutrition) と呼ばれる行動枠組みが2010年4月の世界銀行総会で正式に発足しました。日本政府は「SUN信託基金」を設置し200万ドルを拠出しています。また、2011年4月のSUN国際会議で日本政府はSUNの促進を支援することを発表しています。

今後、こうした資金面での支援にとどまらず、人的・技術的な支援が日本に対して求められています。しかし、日本国内において栄養不良についての正しい理解や政策上の優先度は残念ながらまだ高いとはいえ、その支援の規模や内容も十分でないのが現状です。栄養問題の知識や技術をきちんと理解したうえで、日本独自の経験や専門性をもつ人材が今後数多く必要になります。これまで発展途上国の低栄養問題に関わってきた専門家のネットワークを形成し、その知識や経験を活用し、それを若い人材を育成するために生かせるような仕組みづくりをすること、それが特定非営利活動法人栄養不良対策行動ネットワーク (Network for Action against Malnutrition: NAM) が設立された理由です。

■ 団体の目的とテーマ

NAMは、発展途上国の現場で栄養分野の専門家として活躍できる人材を育成するための実務研修などの機会を創出することや、実際に栄養改善の開発支援活動を実践すること、また、政府、公

共団体、国際機関、NGO、大学、研究機関および民間企業などとのパートナーシップ強化とネットワーク構築を積極的に進め、その経験・知見を蓄積・共有・活用することで、日本における国際栄養分野の発展と支援活動の充実に寄与することを目的としています。そして、国内外のネットワークを通して、「現場で生かせる実践的な知識」の「オープンで自由な学びあい」と「革新的な（イノベーション）アイデア」を最も大切に考え、そのための場所（スペース）を提供することをテーマとします。

今年度の活動と成果

初年度である2014年度には、プロジェクト実施支援活動としてネパール国を訪問し、新規案件立案を念頭に現地状況について情報収集を行うとともに、関係機関とのネットワーク形成を行うことができました。また、国内で栄養改善に取り組むNGOネットワークと連携し、政策提言活動や国際機関・大学・省庁・研究機関などを招いたセミナーにも積極的に参加しました。



ワークショップの様子

さらに、12月19日にワークショップ「国際栄養の現状と課題」を開催し、国際協力NGO、コンサルタント、公益団体、大学などから約20人にご参加いただきました。内容は、国際栄養対策の潮流、栄養不良の現状分析（栄養不良の基礎概念、判定方法、調査手法）、そして栄養改善の効果的介入などでした。ともすれば理論的になって

しまいがちな内容を、講義、演習、ディスカッションなどを組み合わせ、なるべくわかりやすく実践的で参加型の形式にすることで参加者の皆様からも好評を得ることができました。

今後の抱負

今後は、2014年のワークショップをさらに改良し、より多くの参加者のためにいくつかのテーマに分けて数多く開催していきたいと思っています。また、開発援助関係者だけでなく、大学（院）生や研究者なども対象としたセミナーも開催する予定です。

今後予定されるワークショップテーマ

- ◆ 初心者にもわかる、低栄養問題ってなに？その原因と対策
- ◆ 栄養介入の実践と課題（中級向け）
- ◆ 農業や水など保健以外のセクターのプロジェクトを栄養配慮するための方法
- ◆ 栄養調査の実施方法
- ◆ 栄養プロジェクトのモニタリング評価（指標設定、入手方法、外部条件など）
- ◆ ポジティブ・デビアンズ（正の逸脱）アプローチを使った栄養のための行動変容

2014年に行った開発途上国での栄養改善事業の案件形成のための情報収集のフォローアップやNGOネットワークを通じた提言活動も、さらに力を入れていきます。その一環として、海外から専門家を招き、栄養問題の重要性について取り上げる国際セミナーの開催にも関わっていくつもりです。さらに、団体ウェブサイトを立ち上げ、栄養不良に関するあらゆる技術情報、プロジェクト事例、国内外の会議やイベントの情報などをアップロードしていくとともに、Q&Aのかたちで広く関心のある方々の間での情報交換や意見交換も行っていきたいと考えています。そのほかに、地域の国際協力イベントなどでの出展や出前セミナー、そのほかいろいろな形で広く啓発活動も行います。その中で、地方自治体との連携も積極的に検討していきたいと考えています。